国際交流ひろば 3月号

KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL. 254/ March 2022

外国人総合相談窓口

「外国人総合相談窓口」は，鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。お気軽にご相談ください。

070-7662-4541

相談無料！

22言語対応！

※詳しくは裏面をご覧ください

国旗・民族衣装 貸出しサービス（有料）

当協会では，107ヵ国・地域の国旗，21ヵ国・125着の民族衣装等を所有しています。国際理解や国際交流に資する事業に対して貸出すことが可能です。

貸出をご希望の団体は，当協会の申込用紙でお申し込み下さい。その他詳細は，当協会までお問合せください。

国際交流プラザで利用可能なサービスのご案内

国際交流や国際理解に関する書籍を取り揃えています。

※図書の貸出は行っておりません。

◇ 各種図書 ： 辞書，指差し会話帳，地球の歩き方 etc.

◇ 雑　　誌 ：『TIME』，『留学ジャーナル』 etc.

◇ 外国語新聞 ： The Japan Times，人民日報，朝鮮日報 etc.

◇ その他 ： 留学関連，イベント情報 etc.

書籍の閲覧

国際交流を目的とした内容のメッセージを当協会のメッセージボードに掲載することができます。

【内　　容】

イベント情報／語学教えます／友達募集

語学教師を求めています／売ります・買います etc

【利用方法】

所定の様式にプラザで御記入いただきます。

持込みは、A4サイズ1枚まで受け付けております。

掲示期間は、1ヶ月です。事務所にてお申し出下さい。

メッセージボードの利用

「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は，年々増加傾向にあります。『国際交流ひろば』では，鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。今回は，鹿児島在住 20 年以上，ペルー共和国出身の前薗 アルベルト さん にお話をうかがいました。

ペルー・メキシコ料理店オーナー
前薗 アルベルト さん

鹿児島に来た理由を教えてください。

―最初は，鹿児島県出身移住者の子弟を県が受け入れる県費留学生制度で1998年に来鹿して，鹿児島大学法文学部の研究生として11ヵ月学びました。その後，一度帰国しましたが，懇意にしていた先生の勧めもあり，院生として国際貿易の勉強をしました。

鹿児島に来て，驚いたことや困ったことはありますか？

―夜間安全に出かけられることに驚きましたし，安心しました。それと，習慣の違いに戸惑うことがありました。例えば，挨拶ですね。ラテンアメリカの挨拶では，必ずハグをするのですが，日本ではしないですよね。最初は，それにショックを受けて「冷たい，寂しい」と感じました。日本に来る前に聞いていたのですが，やっぱり自分で経験するのとでは違いますよね。今ではもう慣れましたよ。

アルベルトさんは，日系 3 世ということですが，お祖父さまやお父さまのことを教えてください。

―父の両親，つまり祖父母はいちき串木野市と頴娃町の出身でした。また，母の両親は沖縄県出身です。私の父母は，どちらも日系2世としてペルーで生まれましたが，当時の習慣としてそれぞれ幼少期から日本に戻されて教育を受けています。父は高校まで頴娃町で過ごしたそうです。その後，第二次世界対戦の混乱もあって，20代になってからようやくペルーへ戻ってきたのですが，既にスペイン語を忘れてしまっていて，そのため，実の親や兄弟との会話の苦労や習慣の違い等，ペルーへ戻ってから大変なことがたくさんあったと聞いています。

アルベルトさんのペルーでの暮らしについて教えてください。

―私はペルーで生まれ，ペルーの学校に通い，友達もほとんどペルー人でした。

家庭では，スペイン語と日本語を混ぜて話していて，例えば，「ごはん」や「はさみ」といったものは日本語の単語をそのまま使っていたのですが，小学校に入った時にその日本語がペルー人の友達に通じなくて，とても混乱したのを覚えています。

また，私が子どもの頃は，年上の日系人の中には戦時中の日本人排斥の記憶がまだ残っていて，ペルー人のことを良く思ってない人が多かったんです。「ペルー人と友達にならないように」などと言われ，友達はほとんどペルー人なのにあまり一緒に遊ぶことができませんでした。当時は，自分は「血や顔は日本人だけど，99%ペルー人」だと思っていたので，とても残念でしたね。そういった背景もあって，移住者の中では日系3世くらいまでは日系人同士の結婚が多かったと思います。

日本への留学について，ご両親はどのような心境でしたか？

―県費留学生として決まった時には，とても喜んでくれました。ですが，大学院留学の時は，反対していましたね。当時，私は首都のリマにある企業に勤めていて，留学するには会社を辞めるしかなく，両親はとても心配していました。安心させるために，もらっていない奨学金を「もらった」とウソをつき，実際には私費留学をしました。なので，鹿児島に来てから，アルバイトをたくさんしましたね。もう本当に数えられないくらい。レストラン，語学講師，他には，公的施設の草むしりやトイレ掃除などもしましたよ。それでも学費が払えず，1年間休学し，3年かかってやっと卒業することができました。

卒業後も引き続き色々なアルバイトの傍ら，知人の助けを借りて鹿児島市内で英語とスペイン語の語学教室を開き，今も続けています。卒業から8年経って，ようやくペルーへ一時帰国できて，また大学時代に出会った日本人の妻と結婚しました。父は残念ながらペルーで亡くなりましたが，母は8年前にペルーから鹿児島に呼び寄せて，今市内に住んでいます。

現在は，「ラ・キヌア」という南米料理のお店を経営されていますが，レストランを開こうと思ったのはなぜですか？

―鹿児島の人と関わる中で，ペルーについて知らない人が多いことにびっくりしたんです。それがとても残念で「多くの人にペルーのことを知ってもらいたい」「ラテンの文化を広げたい」と思ったんです。そのためには，料理を通して知ってもらうことが一番良い方法だと思い，このお店をオープンしました。ここでは，料理だけでなく，ペルーの民俗音楽であるフォルクローレなどのイベントも行ったり，南米の装飾品を飾ったりしています。スペイン語教室，英語教室もこのお店の一角でレッスンをしています。

「ラ・キヌア」について教えてください。

ラ・キヌア 外観

―「ラ・キヌア」は，ペルーとメキシコ料理のお店で，5年前にオープンしました。私がオーナーで，シェフはメキシコ出身の女性です。そして，このお店の一番のポイントはスーパーフードの「キヌア」をふんだんに料理に使っていることです。キヌアは、南米アンデス地域が原産で，高い栄養価が含まれている穀物です。お店の名前もこれにちなんでます。どんなお店かわかりやすいでしょ。サラダやタコス，ピザ，白米にもキヌアを入れています。プチプチした食感でとても美味しいですよ。

実は，ペルー料理は日本食と似ている点が多くあるんです。南米では珍しく，白飯を主食として食べる地域もありますし，醤油を使ったり，生魚を食べる習慣もあります。ペルー料理は日本人の口にも合うと思いますので，たくさんの人に食べてもらいたいです。

今後の目標は？

―ペルーやメキシコの子どもたちをサポートしたいと思っています。これが，私の夢です。ラテン文化に興味のある友人や私のスペイン語教室の生徒と一緒に現地に行って，日本語を教えたり，折り紙などの日本文化を教えて交流したいですね。

外国の方が住みやすい鹿児島になるためにどんなことが必要だと思いますか？

―日本語のサポートだけでなく，日本の文化や習慣に早く慣れるためのサポートがあると良いと思います。社会人や配偶者で初めて来日すると，教えてくれる人が周りにほとんどいません。そんな人たちに「鹿児島での暮らしはこんな感じだよ」と教えてもらえると良いと思います。

「ラ・キヌア（ la quinua ）」の SNS も
ぜひチェックしてみてください

「かごしまから見える世界」vol.8

かつてから外国との交流が盛んだった鹿児島。鹿児島に居ながらにして世界を感じられる場所をご紹介します。
今回は，キリスト教伝来の地とされる鹿児島市にあるザビエル公園などをご紹介します。

ザビエルの聖腕と公園

「ザビエルの聖腕」をご存じだろうか。終戦後間もない1949年に，ザビエル日本渡来400年を記念して，遠くローマなどから100人近い巡礼団が鹿児島の地を訪れ，十字架を先頭にザビエルの聖なる右腕を高く掲げ，ザビエル教会まで行列になって歩いた。参列者は数千人ともなり，沿道は数万人の見物客で埋まったという。教会に着くと，聖腕は正面祭壇に安置され，新装なった聖堂で記念のミサが開かれた。

このザビエル教会の目の前にあるのが，鹿児島市が管理する，その名もザビエル公園。教会側に面した一画にある石造の記念碑が目を惹く。「ここに公園を作ったのは，まさに教会の正面だったからです。400年に合わせて鹿児島市の戦災復興事業で児童公園として整備されたようです。」と，同市教育委員会文化財課の楸田岳志さんは言う。ただ，その時点ではまだ，この記念碑は設置されていない。その顛末は後述する。

ザビエル公園

ザビエルの鹿児島上陸

公園開設から遡ること400年前。室町幕府の終焉期で戦国の混乱した時代である1549年8月15日に，フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸する。同行していたのは，スペイン人のトーレス神父やフェルナンデス修道士，そして鹿児島出身のヤジロウと彼の従弟アントニオ，従僕ジョアンなど。このヤジロウ（洗礼名パウロ）が，ザビエルの鹿児島滞在中の案内者，通訳，そして伝道者の役割を果たした。

一行が城下での第一歩を記したのは稲荷川河口の戸柱港とされており，現在，その沖合の埋め立て地にある祇園之洲公園にザビエル上陸記念碑が建っている。陶板レリーフには，ヤジロウがザビエルを背負いながら荒れる海から上陸する姿が中心に大きく力強く刻まれ，左側には船とザビエル家の紋章が描かれている。また，右側には島津家の紋章のもと，薩摩の武士，町人，女性，子どもなどが驚きと期待に満ちた眼差しで一行を見つめる姿が表現されている。レリーフの横には飛翔するかのように中空に浮いた形でザビエルのブロンズ像が組み込まれており，記念碑全体でザビエルと薩摩の人々との出会いやキリスト教の崇高さを印象深く訴えている。

ザビエル上陸記念碑

鹿児島滞在の日々

さて，ザビエル一行は上陸後，ほぼ1年間の鹿児島滞在中，どこに住んでいたのか。記録によれば，領主の島津貴久に謁見の際，領内布教の許可と同時に，住むべき住居も与えられたという。現在，その場所は特定できていないが，ザビエルの信念に沿って，城下の庶民の町並みの小さな家に住まっていたのではないかと推測される。

食事に関しては，ザビエルが日本へ出発する直前に本国に出した書簡で「日本人では僧侶は肉や魚を避ける節食を守っているという。伝道者である自分もこの僧侶たちの観衆を尊重し，日本では肉も魚も絶対に食べない覚悟です。」と述べており，おそらく日本人と同じく米や穀物，野菜などを食べていたと思われる。

また，ヤジロウの助けなどを借りながら城下の街角で説教を行ったり，近在の福昌寺へ足繁く通い，住職の忍室和尚と懇意になり宗教的な議論をしたりしている。やがて鹿児島の人々もよく説教を理解するようになり，改宗を望むものも多く，最終的には鹿児島で100人ほどがザビエルから洗礼を受けたという。

ザビエル教会

その後，キリスト教が禁教とされる時代を経て明治期となり，紆余曲折を経て再び鹿児島でのキリスト教の布教活動が始まる。1890年に加治屋町に教会が開かれ，山下町への移転を経て，1908年に現在地に石造の初代聖堂が造られる。写真で見る限り，洋風の装飾を施された背の高い立派な建物だ。だが，残念ながらこの聖堂は第二次世界大戦の空襲で内部が焼失，外壁だけが残される。

終戦後，しばらくそのままにされていたが，1949年のザビエル日本渡来400年を記念して，隣の敷地にローマからの寄付を基にして第2代目の聖堂（木造）が建てられた。既述のとおり，献堂式には，「ザビエルの聖腕」と共に欧米から100人近い巡礼団も訪れ参列した。教会の冊子には，この2代目聖堂と初代（外壁のみ）の聖堂が並ぶ珍しい写真も掲載されている。ザビエル公園もこの年に開園したのだが，後の1961年に初代石造聖堂を解体した折に，その玄関と外壁に使われていた石材を部分的に移して組み合わせ，現在の記念碑として公園内に設置したというわけだ。現場の記念碑を子細に観察すると，確かに石材をつなぎ合わせた箇所が見て取れる。

「ザビエ」と「ル」

ところで，この記念碑に刻まれた文字を見ると「フランシスコ，ザビエ聖師滞麑記念」とあり，「ザビエル」の「ル」が欠けている。この記念碑の石材は，1908年の初代聖堂のもので，当時，その建築にあたったのがフランス語系ベルギー人のラゲ神父であったことから，フランス語発音の「ザビエ」をそのまま日本文字にして刻んだものと思われる。

470年を越えて

鹿児島に上陸したザビエルは，混乱した日本の国情に翻弄されて，都での布教の願いは叶わず，ヤジロウを残したまま日本を去った。ゴアに戻り，中国への布教を決意するも，その行路は困難を極め，南部広東省の小島で病に倒れ，ついに孤独な死を迎える。

現在のザビエル教会は，1999年にザビエル日本渡来450年を記念して建てられた3代目である。建物デザインはザビエル一行が日本への航海に使った帆船のイメージであり，その主聖堂は赤色と青色のステンドグラスに静かに包まれている。ホームページによれば，それぞれの色は「殉教者の血の色，ザビエルの情熱」と「祈り，静寂，ザビエルが渡ってきた海の色」を表しているそうだ。主聖堂を出て2階のテラスからザビエル公園を見下ろすと，記念碑の向こうで子供達が遊具につかまり遊んでいる。470年の歴史を越えて過去と現在，ヨーロッパと鹿児島が繋がっている。

取材協力：鹿児島市教育委員会文化財課

JICA デスク鹿児島からのお知らせ！

2022 年度
募集テーマ決定!!

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

「世界とつながる私たち～未来のための小さな一歩～」

普段口にしている食べ物や着ている洋服、地域に住む外国人や留学生、新型コロナウイルスの世界的な広がりなど、皆さんの暮らしの中で、「世界とつながっている！」と感じた瞬間や出来事はどんなことがあるでしょうか。

たくさんのつながりの中で生活する私たちは、未来のために、一体何ができるのか。皆さんが踏み出した「未来のための小さな一歩」を、エッセイにしてみませんか？言葉にすれば、世界を動かす力になるはず。皆さんのご応募をお待ちしております。

エッセイ
コンテスト HP

エッセイコンテスト６つのポイント！

- 校内選考不要
- SDGs 学習として活用可能
- 副賞・参加賞あり
- 受賞作品は道徳の教科書に掲載
- 推薦入試等の進路に活用
- 最終審査員長に尾木ママ・星野知子氏

2021 年度、鹿児島県からも
多くの方が受賞されました！

＊応募方法は、６月頃 JICA 地球ひろば HP にてお知らせいたします。

JICA デスク鹿児島　担当:仮屋
TEL:099-221-6624　(公財)鹿児島県国際交流協会内

外国人総合相談窓口

鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。生活，在留資格，労働，医療，福祉などで困ったことがありましたら，お気軽にご相談ください。

対応言語：日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モンゴル語/シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語

鹿児島県国際交流協会内
TEL：０７０－７６６２－４５４１
E-mail：kiasoudan@gmail.com
Facebook

本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会
（ 火曜～日曜　９：００～１７：００ ）
〒892-0816 鹿児島市山下町14-50
かごしま県民交流センター1階
Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643
URL: https://www.kiaweb.or.jp/
Email: kia@kiaweb.or.jp
Facebook: https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc

「国際交流ひろば」は，ホームページにも毎月掲載しています。ご自由にダウンロードしてください。